

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも...

Vol.84

ちよつと長かったかな



先月、鳥羽市20歳の会が開催されました。テーマは「群青くあの頃の青春を」。『群青』とは鮮やかな深い青色のこと。また、青色が寄り集まって深い色になったという意味があるそうです。20歳のみなさんはコロナ禍に卒業式を迎え、あいまいな別れ方をした世代です。この日の会がああの頃の続きだと思い、悔いのない20歳の会を企画されました。

私はお祝いのメッセージとして、ちよつと多いかなと思いつつ、次の3つの「つながり」についてお話ししました。

①答志島では中学校を卒業した男子は、数人で寝屋親の下で生活をする寝屋子制度というものがあります。一定の共同生活をする中で、実の親とは別の新たな親子・兄弟の絆を結ぶもので日本中でも今は答志島にしか残っていないと言われています。このところその寝屋子制度に関心を示す研究者が特に多く、一緒に来

られたゼミ生のみなさんもその仕組みに魅了されるのが特徴的です。都市部は人間関係が希薄であるが故に今だからこそ寝屋子制度のような濃密な人と人との「つながり」を欲しているのかと思います。そんな現代の世の中の不安を払拭するヒントがこの鳥羽に残っているのです。

②今、鳥羽では50年ぶりに鳥羽駅前から中心部にかけてのまちづくりを進めています。鳥羽駅前前は電車、車、船の文字通りの結節点です。なかでも駅から歩いて5分のところには船乗場がある結節点は全国的にみてもそう多くありません。その港、マリナーミナルからつなぐ市営定期船は4つの島の約2700人の住民をつないでいます。海で隔てられているから離島なのではなく、海で「つながっている」のだと考えてはどうでしょうか。

③1月1日から「私たちの献血」キャンペーンが始まっています。この機会にみなさんも献血にチャレンジされてはいかがでしょうか？献血ほど手軽なボランティアはありません。わずか30分から1時間ほどで、世の中の役に立てたと実感でき、驚くほど手軽に社会との「つながり」を感じられるのが献血です。私自身、20歳の時に東京で、はたちの献血キャンペーンが目にとまり、献血バスに吸い込まれていったのがきっかけです。爾来、この世の中とのつながり感を若い世代に伝えなければと思っています。体調や個人差のこともあるので全てのかたにお勧めできるものではないかもしれませんが、可能なたは20歳という機会に始めてはいかがでしょうか。

やつぱり長かったですね、反省です。



Vol.235

市民課人権・市民交流係
☎ 1126

ノーベル平和賞

2024年12月、ノルウエーの首都オスロで、ノーベル平和賞の授与が行われました。受賞したのは、被爆者の立場から核兵器廃絶を訴えてきた日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）です。

築きました。ノーベルの一連の発明や技術開発は、軍事技術へも大きな影響を与えました。ノーベル賞の賞金は、ノーベルの遺産を原資とした運用益で賄われています。

ノーベルは遺言に「賞を与えるにあたっては、候補者の国籍は一切考慮されてはならず、最もふさわしい人が受賞しなければならぬ」と記しており、世界で初めての「国際賞」となっています。外国人に賞を与えることが考えられなかった当時としては、先進的で画期的な考え方でした。

今回ノーベル平和賞を受賞した日本被団協は、広島・長崎への原爆投下から11年後の1956年、被爆者らが結成した団体です。核兵器廃絶の実現と被爆者の法的な援護拡大を訴え、国内外で被爆体験の証言や署名運動などを行っています。日本人のノーベル平和賞受賞は「核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず」という「非核三原則」を訴えた1974年の佐藤栄作元首相以来で、50年ぶりの受賞となります。今回の受賞で、核兵器のない世界を実現するための日本被団協の努力が認められたのです。